

コラム① 発達段階に応じた取組について



子供の読書に関する発達段階ごとの特徴について、平成30年3月に出された「子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ」では、次のように述べられています。

① 幼稚園、保育所等の時期（おおむね6歳頃まで）

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになる。さらに様々な体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

② 小学生の時期（おおむね6歳から12歳まで）

低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる。

中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子供とそうでない子供の違いが現れ始める。読み通すことができる子供は、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになる。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする者が出てくる場合がある。

③ 中学生の時期（おおむね12歳から15歳まで）

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになる。

④ 高校生の時期（おおむね15歳から18歳まで）

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになる。

広島県に限らず、全国的に高校生の不読率は依然として高い状態にあります。高校生に対するアンケートによると、その理由として右の図に示すようなものが挙げられています。このうち、特に「読みたいと思わなかった」という理由を挙げる要因については、中学校までに読書習慣が形成されていない場合が考えられます。

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、上記のような発達段階ごとの特徴を踏まえつつ、乳幼児、児童、生徒の一人一人の発達や読書経験に留意し、家庭、地域、幼稚園・保育所・認定こども園等、学校において、切れ目のない取組が進められることが重要です。

【高校生が挙げる、本を読まない主な理由】

主な理由	割合 (%)	主な理由	割合 (%)
読みたいと思わなかった	57.3	読書より他にやりたいことがあるから	69.5
		本を読むのが嫌いだから	12.9
		読まなくても困らないから	16.6
読みたかったが読めなかった	26.2	本を読む時間がなかったから	88.4
		本が買えなかった、買ってもらえなかったから	6.1
		何を読んだらよいかわからなかったから	4.2

出典：第63回学校読書調査

コラム② 更なる不読率の改善に向けて



平成30年度『基礎・基本』定着状況調査によると、中学校での一斉読書の実施率は100%である等、各学校における読書活動推進の取組の実施率は高い状況にあります。しかし、実施率は高くとも、不読率の改善や読書意欲の向上に成果を上げている学校もあれば、そうでない学校もあるのが現状です。

成果を上げている学校には、例えば、次のような特徴がありました。

- 「朝読書」等全校一斉の読書活動を毎日、実施している。
- 定期的に季節の掲示を行う等、学校図書館や図書コーナーの環境整備に努めている。
- 教科等の授業において、学校図書館や公立図書館の本や資料を活用して調べ学習等を行っている。
- 学校図書館の活用方法や約束事が決まっており、毎年、オリエンテーションを行う等、児童生徒への指導を行っている。
- 図書館又はその他の場所に、教職員や学校司書、児童生徒等、身近な人による図書紹介コーナーを設けている。

これまでと同様の取組であっても、取組の質の向上を図ることで、不読率の更なる改善につなげることができるのではないのでしょうか。

コラム③ 自分から進んで本を読んでいますか？

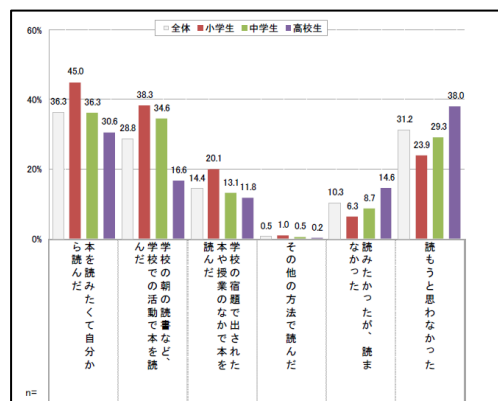


小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領においては、言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としてつつ各教科等の特質に応じて、言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的、自発的な読書活動を充実することが規定されています。

また、幼稚園教育要領では、幼児が絵本や物語等に親しむこととしており、それらを通して想像したり、表現したりすることを楽しむこと等としています。

では、今の子供は、どのくらい自主的に読書をしているのでしょうか。国の調査では、紙の本と限定はあるものの、「本を読みたくて自分から読んだ」子供は、小学生で45.0%、中学生で36.3%、高校生で30.6%となっています。

読書の機会の確保とともに、子供が自分から進んで本を読むための取組が求められています。



過去1か月間における紙の本での読書
(平成30年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」)